



本草綱目詳說

二

北
土
至

一奴
997
2



本草綱目石部目錄第九卷

石之三

石類上三十二種

丹砂

水銀

水銀粉即輕粉

粉霜

銀朱

靈砂

雄黃

雌黃

石膏即寒水石
玉火石 龍石 膏附

理石白肌石附

長石

方解石

滑石

不灰木松石附

五色石脂

桃花石

爐甘石

井泉石

無名異

蜜粟子

石鐘乳

孔公薺子

殷薺子 石牀石花石骨附

土殷薺子

石腦

石髓

石腦油
地渡附

石炭
然石附

石灰

石莖
暈石附

本草綱目得祿卷九



丹砂

辰砂和淨通名

三二イヨ紅

石之三

石類上三十二種

扇山小野先生以授

門人

石田熙筆受

辰砂宜列ヲ上品トス故辰砂宜砂ノ名アリ中集
ニテ丹トイフハ辰砂ノ一ニ日本ニテ丹ト云モノハ黄丹
ノ辰砂ハ淨液ノ上品トス紅色ト赤上品ニ舶來上
新古ノ別アリ古後ハ上品槐又ニ分ヨリ一寸ニ至ル
黒赤色之明アリ淨今少シ又一分許ニ砂ノ如クカク
ニリタルヲ茄子サ子ト云ニ色ノ赤キヲ貴フ故ニ昔
舖ニ銀朱ヲ塗ルアリ銀朱モト辰砂ヨリ出ト雖モ

一度焼テ水銀トシテ水銀ヲ燒テ銀朱トナス故ニ再
造ニ業ニ入ルニ從テ淨ノ用ヘシ從テ辰砂ハ燒リニ從テ
再造リナルニ新後ノ辰砂ハ細末ニ塊ハナシ

其ハ上ニ降フ辰砂ハ下ニ沈ム近年和産アリ然レモ
業肆へ出スホトニ不及大和吉野川ノ上ニ出ス其
豊前ノ厚存村ニ出ツル水銀ヲトキキンニアリ
ニナリ中品之黒赤色又業肆ニ賣ル朱砂ト云モノ

アリ是ハ和名ノ朱砂ニナリ辰砂ト云モノ水銀ヲ燒テ
銀朱トナストキ銀朱ハ皆上ニ着ク停ハ皆下ニタレ
生停黒赤色ニ光リアリ赤鐵攷アリ此ハ辰砂ニ
是テ
朱産ニ朱砂ト云テ賣ル其ハ銀朱ノ燒停ニ毒色

ニ業ニ入用ニハカラス水銀晝明中宗奭曰今有水
銀燒成丹砂匠人不曉誤用不可不謹ト云ハリ
辰砂ノ下ニ

水銀

ミツカ子 産名 古マルカントヘイヌ
今メリリヤル

長崎浪美ニテ辰砂ヲ燒テ水銀トスルニ特珍引陳
靈運註論為有水銀海者謬ニ矣 物理小識走馬吸水銀与
走馬射阿魏皆奇言從耳
禰頌以馬齒莧得水銀之說亦誤ニ矣 天工開物水銀
与珠皆能止
頭海草頌之說ヲ端住安耳又曰
方書曰馬齒莧取草錫者安言也水銀ヲトルノ法天工開物ニ
詳ニ細目ノ説ト異リ淨後上品アリ 奉邦ニテハ勢列

上品アリ長崎浪美ニ上品アリ
厚解 嘉禎曰取去汞之砂殺名天流コレ辰砂ヲ

燒水銀ヲ取トキノ停ニ業精ニテコレヲモ水銀燼ト云
[癸羽] 宗奭曰今有水銀燒成丹砂コレハ水銀ヲ燒銀
朱ヲ取タル停ニ朱座ニ朱砂ト稱ソ嚮モコレニ又分
辰砂トモ云 和俗コレヲモ赤水銀燼ト云黒赤色ニメ
先リ赤 鹹 攷アリ

水銀粉

ハラヤ イセヲシロイ ハラエト名

幣列各品ニ故ニ伊勢ヲシロイノ名アリ 續日本紀曰之
明天皇和銅六年伊勢國井澤ヨリ始テ水銀粉ヲ
融ス今モ伊勢ヨリ多燒出ス水銀ヲヤキカヘシタルモ
ノ之法終活ニ詳ニ日存ニテ燒クハ水銀ト水トノミニテ
燒ク出ニテ釜ヲ造リ四辺ヨリ火ニテ燒キ釜火ニ丸寸ニ

水銀ト水トヲ釜中へ入ル直ニ蓋ヲスルニ蓋ノウラニ
ツリモノ輕粉ニハラヤニ敷遍如此トトル釜ノ造リヤウ
アリ

粉霜

産名メリタリヤルトウリス

一 医宗粹言曰升粉霜法用水銀二兩坩一兩明礬石
一兩皂礬石一兩硝又錢共研一処以水銀不見星爲
度用固濟確一筒裝入前業確口用鉄燈ヲ封固
封密鉄線纏緊安百眼上吃又後武煉三炷香燈
蓋注水冷定取下升在蓋上者掃下爲粉霜墜
下者可以洗毒瘡傳腫毒

銀朱

ニユ

玄制
詳見天工開物
綱目ノ説ハ遠
遠ニ

水銀ヲ燒テ取ル故ニ銀朱ノ名アリ今朱スミニスル銀朱
ナリ古今秘苑ニ朱スミノ調ヤウアリ朱スミニシタルヲ
朱錠ナト云今朱座ニ賣ルモノ下品得後上品琉球至
テ上品トス然レモ琉球ヘモ中善ヨリ来ル琉球ヘハ至テ
上品来ル日本ナヘ来スモノハ次ニ朱座ニモ 上ノ取ル
上品ニ通用ノモノハ下品ニ銀朱ヲ取タル陰ヲ朱座ニテ
朱砂ト稱シ售ル又ハ辰砂トモ云業肆ニテ水銀爐ト
云此水銀奈明宗藥所謂今有水銀燒成丹砂ト
即コレニ

靈砂

水銀ト硫黄トニ品ヲ燒テ割シタルモノ故ニ二身砂ノ名

アリ業肆ニ水銀爐ト云モノアリ此ヲ以テ亮レモ此ハ辰砂
ヲ燒キ水銀ヲ取タルカスニ即水銀在ル所ノ天流星ニ又
ハ辰砂ニ水銀爐ノ名アリ此方ヲ靈ニ亮ツ相近キ
ノナリ靈砂ノヤキヤウ大礫相近キモノニ

雄黄

ヲワウ イワウ

和産ナレ品類多ク古後上品色赤キヲ雞冠雄黄ト
云業肆ニ雞冠石ト云人形様アリ色赤ク少シ黒ク光
徹アリ甚ウルハニ新後赤色稀ニ臭クノ黄色ニ局
集解臭黄ニ此中ニテモ赤色ヲ擇ミ用レハ業ニ入
堪ユ又臭黄ハ色黒ク下品ナリ

雌黄

和得通名 金液和方 ナイリコシ和方

古_ニ和_ニ産_スト_レ
今_ハ産_スト_レ下_ニ

和_産ナ_レ船_来多_ク上_品少_シ古_後色_色黄_黄ノ_光リ
了_リ了_リ是_上品_之磁_質似_テ色_黄ナル_ト矣_リ磁_碎ケ
易_シ船_来色_黑キ_{アリ}下_品今_業特_テ画_家用
ル_ラ雌_黄ト_云是_ハ蘇_黄之_雌黄_ニア_ラス海_蘇ト_云
孫_夏ノ_汁テ_煉成_スモ_ノナ_リ色_黄之_海蘇_和産_ト云
業_舖テ_本條_ノ雌_黄ヲ_石雌_黄ト_云テ_蘇黄_ニ別_ツ
和_和同_キヲ_以テ_ノ故_ニ

石膏 和_得通_名

船_来上_品塊_ヲナ_レ黄_白色_如蠟_味鹹_攷アリ_今ハ
紙_後上_品アリ_石見_ト上_品之_河内_尾張_出モ_ノ下_品
ナ_リ船_来和_産大_体同_ニ

附_録 玉_火石 火_ウチ_石

阿_州ノ_産蘇_的青_{タル}モ_ノ之_外濃_列養_老ノ_産云
別_玉造_等ナ_リ毫_名コ_ルノ_ウエ_ルヒ_イ火_ウチ_イト_云
龍_石膏 未_詳

理_石

石_膏ノ_種類_俗通_ノ相_混ス_石膏_ハ味_鹹攷_粗ニ_テ連
續_セス_理石_ハ味_鹹攷_細密_ニ長_クス_テ通_リ外_産ノ
是_ニ和_産南_都ヨ_リ出_ス俗_呼テ_石膏_ト云_伊豆_相根
河_内ヨ_リ出_皆下_品之_南都_ヲ上_品ト_ス

附_録 白_肌石 未_詳

長_石

古後稀アリ今ハ不後灰色ノ硬キ石之正中ニ齒ノ如キ
モノ生ス長サ馬齒ノ如ク巾一分許業肆ニ長石ト云
云モノ偽物之石膏ヲ方一分長サ二寸許新リテ售ル

方解石

イギリの イ、ギリ 佐後

得後上品又茶褐色ゾ堂徹ナラサレハ下品白也明
徹ナルハ上品之業肆ニ方解石ヲ以テ寒水石ニ誤ル寒
水石ハ凝水石之本條後ニ見ユ方解石和産ハ岩陸
出羽讚岐伊勢備中加賀但馬能登用前豊前
豊後佐後對馬壹岐薩摩等ノ諸列ヨリ出ツ
和産ニ下品ハ州徹ナラス

滑石 和産通名

舶来上品白滑石好シ色白キヲ貴ク本州原始曰
色白光潤者良黄白色劣ル本徑逢原曰色赤者
有毒ト古後新後數種アリ白ノ光リアルヲ上トス黄
テ味耳キ良シ土臭アルハ惡シ業鋪ニ舶来數種
アリ生滑石ト称スルモノ白キ粉ヲツリ洗淨ノ用ヘシ
和産備前ノ八鬼山ヨリ出ツ即ヤキヤ石ト呼フ舶
来ヨリ少シ硬シ和産ノ中ニテハ此上品之河内國分
村ニ出ス志貴山ニ出ス皆下品之石見ユス伊豫
三角寺ノ通ニ多クアルトコトアリ方ニ言スメリオコシ
ヤリト云五色共ニアリ此滑石ノ類青田石ニ似テ硬シ
越中ニ軟ナルモノアリ色青白下品ニ

越前寒水
流に投じ
一切空物皆
化石

崖不解 穀同冷滑石 今市中ニ賣ルイニワタト云
ノ之状青田石ニ似テ色黒キ班点アリ 讚列上野
越中ノ之列ヨリ出ス 又真ノイニワタアリ 美夷考所
載石麻コレニ綠色ニ黒ニアリテ白キ一分許ノ柳條
リテ柳條ヲ刀ニテ削リトシハ 錦ノ如シ 紅色ニボウ
ベイト云 日本ニ石錦ト云 備後ノ三原薩麻手越
後 越前ヨリ出ス

不灰木

古ニ舶来アリ 今ハナシヤケザル木ニ日本ニ木化石ト
云 是ニ列越前ニ木化石多ク 板ト云ニ石ニ化スアリ
加賀ニテハ立花ニ供ス 徳テ寒國ニ多ク 石ノ形木ニ

似タルモノ是ニ今 紫肆ニ白キ石ヲ售ル 木理アリテ 縦
文アリ 此木化石ニ或コレヲ以テ 龍骨ニ偽ル
筑前名島ニ檣ノ化石アリトウ 金ノ痕クホミアリ 鋳
色今尚存ス 檣ハ折テアリト云 明和寛冬今國
ノ人ノ話ニ俗傳コレ 神初皇居ニ韓 征伐ノトキノ 檣
ナリト云 奥列仙臺モガ崎ノ大年寺山ニ 瀬ノ木ト
云アリ 水中ニ入レテ 三年ニメ化石 瀬ノ木ハ 海相ノ
ナリ 又美濃ニハニラノ化石アリコレ 杉楊 正カ未考
又山養子ノ化石 先年 關山ニ生レノ會ニ出タリト云
江別山田木内小半所持ス 又不葉石アリ 得名化
石 階確類書ニ見タリ

崖千解 萬年火把 百里女イツてテト云長一尺
許中八九分アリ万年青ノ葉ノ如シ厚キ葉ニテ
圍ヲ卷中ハ諸木ノ脂ヲツメタルモノ在 新後トレ古
後希アリ一夜僅ニ二三寸ヲ焼ク

附石 松石 ツイレ

同様法法曰断松投之三年輒化而為石色蒼
微然尋理猶在謂之康于石。康于一河ノ石
松樹此河入レ他ノ石トナルト或柏或箱或木
筏等ヲ此木ニテ作り至自經ニ他ノ石トナルト云
松ノ木化石日本諸國ニアリ 肥前ノ松浦。多アリ
下野ニモアリ 江戸本門寺ニ松樹全身石トナルモノ

アリ 嵯峨大井川ニ松ノ化石アリト云異ハ不然石ノ
松ニ似タルモノ又コヘ松ノ化石アリ最觀ニ堪ク琥珀
色ニメ玉ニ類ス

五色石脂

石脂ハ皆石ノヤニナリ石中ニアラズ土中ニアリ葉
用赤白二種ヲ主トス下ニ詳ニス

青石脂

青白色ニ舶来ナシ和産又檜木原 稻荷山和列
法隆寺山春日山等ニ産ルモノコソ皆青瑩ニ

黄石脂

和産也 崎ニアリ上品肥後上品山列 能爾八瀬ニア

リ共ニ下品ニ紅毛ヨリ来ルニアリ外科ニ用ニ壺名
ホウリス（阿ノ名）ニヤ淨後ナシ

黒石脂

色黒ニ淨後ナシ紅毛ヨリ石筆ヲ来ス此黒石脂ノ
種類ニ至ラ上品壺名ホウトロウト此ハ和産ナシ
大和存州ニ黒土ヲ載ス即黒石脂ニ而云山列山科
ノ東牛ノ尾山觀音堂ノ後ニ黒キ土アリ青色ヲ
帯フト又如クニ産ス天台山和列吉野山列嵐山
水尾木舟幡枝大原吉田瀧谷等ニ出ス砂ヲ
去リ石筆ニ造ル成ハ青色黒色ニ今市中僅
石筆ハ黒キ硯石ノ粉ヲ蠟淚ニテ煉挺スルモノニ

白石脂

和産アリ伊豆上品ニ和列吉野郡ニアリ此中品ナリ
淨後ハ白滑石ニ似テ最ニ別ニ難シ只味ヲ以テ
分別スベシ（石脂ハ淡ニアリ
滑石ハ早シ）

赤石脂

舶来新古数種アリ軟クノ麻石ニ光澤アルヲ上トス
粉紅色ノ細ニ新後ハ白石脂雜ル至テ下品ハ白
キ砂ニ雜ル今赤土ニ任ルモノ多クハ桃花石ニ和産
佐後ニ出ルヲ上品トス光リアリテ細ニ粉紅色堪入
常用方言クシワタト云同名多ク石麻冷滑石馬
勃奥列石綿皆同名異物京都近道ニテハ愛

宕山ニアリ下品解翹ニ生スレハ上品淨後ニ似タリ
其ニ元賣ル堪用

桃花石 和淨通名

別ニ舶来トシ赤石脂ノ中ニ混ニ来ス赤石脂ハ軟
ニシテ粘古桃花石ハ硬メ不粘古紅白相雜者宗
奠所説ノ如シ極スルニ赤石脂ノ下品ニ初産ニアリ

爐耳石 和淨通名

舶来アリ古後ヲ上トス新後中品致種アリ沫稜
上品色白ク軟ニノ碎ケ易シ状アハタケタルヤウニ集
解ニ状似羊胆ト云モノ是ニ即曰羊胆爐耳本草一
名白爐耳官師便方紫肆ニシニキウ年ニシロキト云

モノアリ此ハ沫ノ如ニナラズ扁ニ塊ヲナス重シ片子

爐耳ト云本草原姓有回 其色青キアリ黄ナルアリ

テ白キヲ貴フ黄次之青色愈シ和産原師ニ

アリ金銀銅ヲ燒煉知ノ灰フキノ其錫ノ底ニアリ

此ヲ瓦罐内ニ入口ヲ封シ燒ケハ其瓦罐ナリニ塊ヲ

ナス此ヲ取出シ瓦罐ヲ破リ用エ此ニ即トクニ和亞

鉛ト云傳石倭鉛天工開物水錫同上日奪ハ副未成者

舶来ニ天工開物ニ詳ニ哲曰金銀銅以下ノ數字ナリ手上文似不連

雁小解

今ノ之黄銅ニシコハニテハ假錫ノヲニナ今云フニ

井泉石 未詳

無名異 和淨通名 壺石 下ヒスカラニナアリス

舶来アリ其名矣同名多ク南蛮焼ノ茶碗青キ又
彩ヲナス丹者ヲ其名矣ト云又炭ヲ久ク焼ク知ノ下
黒色ノ塊生ス此ヲ紫木膠ト云此モ其名矣ノ名ア
リ物理小識ニ詳ニ石別銀山ニ其名矣アリ本條ノ
物ニ非ス和名ノ其名矣ト云中紫色ノ彩アリ此ヲ
采リ水花ノ四方ニ價賣ス用テ血止メトス偽物多キ
モノニ本條ノ其名矣ハ舶来ヲ上トス大ナルモ僅ニ一
分許小ハ至細ノ砂ノ如シ柔特ニ通角ス又讚列ニ
ムカゴ石アリ此ハアテクニ二分アリ同メ丁拐アリ
其者類ノ零餘子ノ如シ破レハ中空之色舶来ニ均シ
此モ其名矣ニ類ノ下品ノモノナリ

蜜西木子 未詳

石鐘乳 ツラ、イシ イレノツラ、

又中空虛ナルヲ鵝管石ト云此伊銘ノ丹生ヨリ出ツ
又山列稻荷山ヨリモ出ス綱目ニ鵝管石ト鐘乳ト混
一條ニ出ス互ツ別ツヘシ医学入門業性要略等ニ并
各條ニ出ス可ニ加列ヨリ出ルモノ破列衣スレハ中ニ蟬翼
ノ紋ヲ備フ列和列大峯山佐後海府奥列岩塚
山 大ナルアリ伊勢丹生村伊豫小松
肥後ワタリ山佛ヶ岩屋讚列八島能野小石島越
中伊波郡薩麻寺諸國ニ出ツ只光徹ナルモノ
上品トス

雁不辭 如氷柱 ツラハナリ

孔公薛子

本ヲ殷薛子ト云中ヲ孔公薛子ト云末ヲ鐘乳ト云一物
三名別録ノ祝ハ時珍ニ及ス詳ニ

殷薛子

鐘乳ノ根ニ

附録 石牀

下ヨリ生スルヲ石牀ト云土ニツキ生ニ乳滴リ溜テカタ
ニリ生スルニ鐘乳ハ上ヨリ下リ生スルニ

石花

竹笋ノ如ク特立スルハ石牀ニ枝アルヲ石花ト云冠宗

奕所祝ノモノハ海中ニ生スル石梅ニ菊銘石ノ形ニ似

ノ枝アリ珍玩考ニ詳ニ 菊銘石ハ本草原始所載
玲瓏石確ニ新考

石骨 未詳

土殷薛子 イニタイコ 角ノ化石 長イニイニ

土中ニ生スル鐘乳ナリ。江列月川村トサカ山ニ生ス

山列石山ニ銚寺ノ古室ニ石方根ト云モノアリ即テ

土殷薛子ニ

石胆 未詳

疑石飾ノ類ナラシ太乙餘糧ニ石胆ト云

石髓

石ヲ破リ内ニ水ノ如キモノアリ風アタレハ即硬リナルコ

又越後黒川村
ノ河中之生

ノ類カ玉不髓ト例ヲ同ス

石胆油

クソウツノアブラ

尋常律之又奥律之越後村上ノ地石
此知此油ヲ生ス故ニ名ヲ

此油流水ニ浸ミテアリカクテノ葉ニテスリヒトルト之

カリニハ歳或ハ
約テノ類ナリ 讚別香川郡安原村ヨリモ出ツ信列ヨリモ

出ス續日存記曰天智天皇七年越後國ヨリ燃ル

燃ル水ヲ奉ル燃ル水ハ石胆油ニ燃ル出ハスリモ又ツリ

モ元稱スルモノ之江列原本郡岩槻ト云知スリモヲ

出ス又石部ノ近野ニモアリ又山崎賀茂蟻ヶ池辺

ノ田中ニモスリモアリコレ澤名古来不知而ノ江南

通志ヲ按ニ青風ト云モノアリ是耶此初之石胆油ハ

越後ニ出ル最古ニ故ニ上品トス

附録

地波 田ソブ チシブ

田中ニ金ケアルガ如ク浮キタル油ノ如キモノ是ニ

石炭

カラスルイシイハキ長モヘイシイニスミ 馬石伊賀
佐社

ウニ同上
俗稱 ナニウニ ワタウニ キウニ 石ウニ

夕ケウニ以上五名伊賀方言依テ形異稱コレニエウニヲ
并テテ六種トス出ウニハ別種ナリトニ辨ス

茶肆ニ此ヲ岩乾際ト云和彦貞列南都下野鈍子

浦君ヶ濱濃列養老村江列土山日岩根村相列

由井ヶ濱筑前黒崎村江列濱ノ官長列舟木村

加賀白山山崎本津川伊賀皆産ス黒色ノ光

澤アルモノ上品之長門及筑前ノ産ヲ上品トス江列ノ

看褐色ニナ下品類天工開物ニ詳ニ長門ニテハ燧反

シテ用エ故ニ真ニナレ○別ニ土ノワニト云モノアリスク
モノ下ノ江別粟本郡ニ出ツ同國老曾ノ觀音寺ヨ
リニ出ツ共ニ枯葉ノ腐タルカ如キモノアリ

附録 然石 少詳

石灰 今ニハイ 日ニイビシテキカルコト能ク

石灰膏ニテ花彩ト云モノ上ニハ石ヲ燒キ灰トス江
別伊吹山近辺石部ノ辺ニ燒ク是ハ皆青石ノ山列
鞍馬ニ燒クハ灰色ノ石ニ燒ヤウ天工開物ニ詳ニ
青色ヲ上品トス黄白次之天工開物風化水化ノ石ニ
ニ詳ニ風化ハ二十日許徑子ハ碎ケス水化ハ屑碎
ク天工開物曰最徳者曰礫灰最悪者曰穴恙滓

灰

石麩

土中ニ出ツ麩粉ノ如ク白ク塊ヲナスモノニ近年肥
後ノ釜塚郡ヨリ出ス年饑饉ス京師へモ水花
タルモノ未ル紙白色味清薄土臭ナシ能食ヨリ也
アリ是ハ少シ塊ヲナス外面微ク赤色ヲ帯フ内ハ白
色武藏土也云ヨリニ出各上品

浮石 今ニハイ 海南石 和方

海中ニ浮タル石之沫ノ化タルモノニ伊豫薩麻等列
相換ニ出ス皮作家用ルモノハ難及テ洗テ一種蜂窠
ノ如ク孔産キモノアリ黒褐色沫ノ化石ト云越中方

言蜂ノスレト云皆浮石ノ種類ニ又海上ニ海ヲタ
ト云モノアリ錦ノ如ク淡茶褐色ニウミヘテ云海
上ニ浮テ生ス中々虚外錦ノ如ク色名スホシス軟ニ
メ結水ヲ含ム是ニ浮石ノ種類ニ

附録 暈石 未詳

ニキツモノアル石ト云説ハ非ニ

石芝 ヲサヒライニ 龍宮ノサイハクダケ

此ニ海中ニ生ス能列田辺ニマリ薩麻手ヨリモ出ス上品
ナリ之外諸國海中ニ生ス相層ノ状ニ似テ枝アリ
多ク莖ノミニテ全ク茎アルハ稀ニニツニ別ルモノモア
リ茶褐色ノモノカウタケ石ト云面ニ疣瘡アリテ皆

キレナニモ佗ヲサヒラ石ハ面ニキレアリテ背ハ滑ニ品類
最多ニ形大ニノ荷葉ノ如キアリ徑ニ四尺中山傳信
録曰有根有葉大者如盆小者如盞モ佗如菊如
菊如荷葉者不可勝数。産小解説ハ奇怪ニ又
一種牡丹花ノ開キタル状ノ如キアリ和名石牡丹ト云
是石芝ノ種類ニ石耳ニ石芝ノ名アリ同名異物

本草綱目石部目錄第十卷

石之四

石類下三十九種

陽起石

慈石

玄石

代赭石

禹餘糧

太一餘糧

石中黃子

空青

曾青

綠青

扁青

白青

石膽

即膽礬

礬石

特生礬石

握雪礬石

砥石

土黃

金星石

金石附

波安沙安石

礞石

花乳石

白羊石

金牙石

金剛石

石罽附

越砥石

黃田石

綠唐青

碧石青附

麥飯石
杓上砂
石蛇
蛇黃

水中白石
石燕
石蟹
霹靂砒

河砂
石蟹
雷里堂

本草綱目得說卷十

蘭山小野先生以後 門人 石田照 筆受

石之四 石形下四十種

陽起石 へいとうへいじ 註

キヲ、ノ根ト云 祝志 徳雲母アルト、口陽起石ナシ
舶来白ノ芝アリ 從ニ 朱鍼 紋アリ 石膏ノ肌 似テ
是細ニ 本草 原始如 踏馬 鬚 毛 有 真ト云 へい 狼牙ノ
如ク、ツ 離ニ タルアリ 雲頭ノ如キアリ 西脚ノ如キアリ 雲
頭ハ多ク 塊アリテ 佛頭ノ如キ 形ヲ云 西脚ハ 朱鍼 紋ノ
形 扶ヲ云 和産 近年 江列 石都ニ 出ス 上品ノモノナリ
又 雜担 曰 山東 有 陽起石 煨 爲 粉 着 紙 上 日 中 暴

傳便社花起蓋此石為湯精相感之理固宜爾之
珍玩考曰磨水透精見日則花故曰陽起石

慈石 ハリスヒイ

舶来上品大ナルハナシ股刀コカク刀子 或釘總ヲ鉄物ヲ吸石
小ノ鉄大ナルヲ吸ヲ上トス 石小ナルハ吸フトユルキハ下
品之和産備前野ヒロヲ上品トス 釘二三箇ヲ吸フ
券濃郡上ヨリ出ルモノ中品アリ 大石ナルハ大鉄ヲ吸フ
小石ナルハ小鉄ヲ吸フ 舶来上品ノモノ劣レリ 備後
野呂山ヨリ出ル下品之奥列仙尾南郡共ニ出上品之
甲斐金峯山ニ出ル中品之續日存紀同和銅六年
近江ヨリ出ル今ハ近江ニナシ慈石ハ皆黒色ヲ赤ク

常ク少シニ銹ル色アリ 中ニ砂鉄ヲ孕ム外ヨリ吸フニ
非ズ自然ニ中ニ生ルナリ 吸トコロニ首尾アリ 首ハ
吸フトツヨレ尾ハ吸フトユルニ 鍼ノ本ヲ首ニテ磨リ
鍼ノ先尾ニテ磨ル首ニテ磨ル方ナヒヲ指ス 尾ニテ
磨ル方南ヲ指ス 玄針慈石ノスルトコロ及スレハ
走ルナリ 平生ニ慈石ヲ貯フニ 鍼砂ノ中ニ入ルニ 宜シ
鍼砂皆石ニ着キ 毛ニテ包ムカ 如リニナリナリ
磁石毛 鍼砂ノ着タルモノナリヘシ

玄石

慈石ノ種類針ヲ吸ハサルモノ 形状同シ 慈石ノ其
山ニ皆アリ 産不鮮ノ説ハ不可ナリ

代赭石 和傳通名

舶来新古アリ古後ハ赤黒色土塊ノ如ク大サ一二寸
下品ニ新後ハ大小数種アリ大ナルモノ尺ニ充ツ赤黒
色ニノ甚硬ク破レハ数片ヲナス破レコグテ鉄色ノ
光リアリ外佛頭ノ如ク模泰所謂丁頭代赭者足
上品ニ古後ハ劣レリ灰濃赤坂辺ニ和産アリ即チ
丁頭ノモノ業肆ヘハ未タ出サズ今通行ノモノハ唯
舶来ノミナリ

附録 赤石 未詳

禹餘糧 シンゴイハ

舶来和産共ニアリ其後ノモノ大サ一二寸外皮ノ

厚サ一分許此ヲ破レハ中ニヘタテアリテ黄自色ノ
粉アリ又ヘタテノナキモノアリ粉ノ盈ルハ同ニ和産
大和社食甲斐和泉等諸國ニアリ又江戸白銀
基細川家ノ別荘ニアリ

産中解 蘇生山出粉 土佐卷之 **草生山出粉** 師
草へ一名自然穀コウホウムキニ又ラシセキニヤウ
ト云

太一餘糧 イハツホ ツホイシ コロコイシ 所列ヲニツフテ

舶来アリ和産ニ処ニニアリ泉列記列讚列和列
山崎木津ノ近辺ノ山ニアリ泉涌寺山ニアリ其申和
列生駒山ニタツアリ石産ニ大ナルアリ江戸石録ニル

へキモアリ雲林石譜ノ記可之皮石ノ着タルモノ太一
ナリ石着サルモノ高餘糧之太一ノ皮コレヲ高餘糧
トスルハ甚硬シ破レハ鉄色ノ光リアリ中ノ粉黒褐色
ナリ黄白色ハ非ス

産解 卵石黄

コレ饅頭石トシテ石ト云モノハ底
ニ分乃至一寸長キモノアリ黄白色ニ細玉ヲカクメ
タルガ如ク内ニ黒赤色ノ筋アリ豊前ナカツ周防ノ
水上能登甲斐ノ荒井村所産ス

石中黄子

京葉曰子皆作水

高餘糧及太一餘糧ノ未熟モノ之中粉ナリ黄水
アリ産解時珍記詳之時珍又曰石中黄則堅凝

如石屑ト此ハ別物ニ粉黄ノ石トナル非ス和列
書白トアリ方言アカスリ石ト云及作家獸皮ヲ
没ノニ用ユ浮石ニ代フ

空青

クンシヤウ
各不可ナリ

扁青ノ種類ノ形状矣ルモノニ唯碧色ノモノニ非ス
緑色ヲ帯フ圓ニ大サ彈丸ノ如ク中空處ノ水アリ
此水ヲ采リ眼科ニ用ユ水ナキモノハ楊梅青ニ品字
箋曰腹無水者取全殼埋地三五夜自然生汁
漿可點眼殼可磨翳。舶来和産有古物稀ニ
系埭ニ賣ルモノハ青白色ノ土ニ雞子ノ大ニ送
リタルモノニ本経逢原曰天下有之方青人間世

鼓目

曾青

扁青ノ種類中実ノ長ク連珠スルヲ曾青ト云
出羽秋田鉦山ニアリ上品碧色ノモノ

綠青

撰別多田羽別阿任共ニ上品長門上野下野會津
皆下品徳テ鉦山綠青扁青共ニ生スルモノ之土
中ニ生メ塊ナス膏ニ疣瘡アリ蝦蟆背ノモノ佳ト
云上品之石ノ時黒色ヲ帯ルヲ可トス石ノ時緑
色ナルハ末ノ色後ニ赤藥所謂綠色者佳トコ
上品ノモノヲ云蝦蟆背ノモノ是ヲ破レハ末鹹紋アリ

扁青

画工用ニ所ノコヲニヤウ是ニ續日存記ニ金青ト云

リ石譜ニコレヲ如刷絲ト云。今紅毛孔雀石ト云アリ
孔雀ノ色ニ似タル故ニ即蝦蟆背ト云。一種色後キアリ
是ヲ中真ニテ鸚鵡石ト云是ヲ笠^{ヤクノシク}笠^ニ塗^ル説アリ日
本ニ亦同レ故ニ日存ニテコレヲ笠^ニ生石ト云云林石譜
曰色淺緑甚不堅名鸚鵡石歟手取以鉦磨磨石
可請筥。又一種石細砂ノ如キモノ吹キ出スアリ
又扁青ト雜リツカアリ請^ル筥下品ニ從テ石ニツリハ
下品ニ入京用ニ綠青ハナラロリニヤウニ鉦青ト云
扁青銅ノ鑄ニ

古石之上野ヨリ出ルハ下品之今ハ撰別多田羽列阿任
ヨリ出ス最上品之上品ノモノ俗ニミクレト云佛頭設彩
スル故ニ舶来モアリ上品ニ徳テ扁青緑青細末スレ
ハ共ニ色淡ソナルニ色濃キヲ貴フ日本ニモ一着ニ著
ニ著アリ一着ニ粗ニ設彩ニ用ヒラレス。花コニヤウ
ハ紅毛ヨリ来ス至性不詳貝原翁ノ説ニ硝石ヲ
以テ造ルヒイトロノ類ニト云ヘリ未詳)

白青 ヲンニヤリ
扁青ノ生レツキ色ノ淡キモノ之別ニ一品アリ極テ
扁青ノ物ニ非ス舶来今ハナシ
附録 綠膚青 未詳)

碧石青 未詳)

石膽 膽礬 和作 過名 青石子 和方 書 ヒツテリヤウルン紅毛

業律ニ多アリ長サ一寸許石英ノ如ク稜アリ長短並
ヒツリ碧石色ニ業律ニ賣ルモノ皆和産之羽列秋田トス
往登所 トコロノクナ ニ出ツ足ニ自珍生ノモノ上品トス下野足
尾山ニ出上品業律ニ二品アリ色明徹ナル者膽礬
ト云者火レハ色黄ニ呈ハ火ニ包レハ必汁出業ニ入用
ヒス自珍生ノモノ汁出不足上品

礬石

淨後ナシ和産ニ未詳北國ニ嵐コロシト云石アリ足
礬石ナルヤ未ツ至定ヲ詳ニセズ大抵礬石ノ種類

ナリ砥石ノ類ハ非ス又礬石ハ砥石ヨリ毒薄シ
特生礬石

得後礬石共ニ真物未詳丹後宮傳ニスケ舎
利ト云モノアリ何列ニイハヤ舎利アリ蓋共ニ特生
礬石ノ類

握雪礬石

未詳是等毒ノ物食用ニ足ル礬石ノ類ニ非ス蓋
石麩ノ類炭殺シト云視アリ甚非ニ

砥石 唐名ソツリコアト

俗ニ砥石ト云ハ礬之燒テ霜トナスヲ砥石ト云生ヲ砥
石ト云砥石ト云信石ト云信石ト云信石ト云故之舶来和

真物ニハ舶来
アリト云舎利
未至真物
手見

産トモ真物多クニ自然生ノモノニ非ス真ナルモノ土中
ニ生ス山ヲ掘リテトルニ天工開物云似土堅似石碎ト
生ハ多クリ白色又黄色モアリ云相モ白ニ燒テハ毒ヲ増
ス本徑達原曰色白有黄暈者名金脚砥色紅
者最劣不絶入業此及時。和ニ砥石ト呼フモノ長列ニ
出ツ自然生ニハ非ス銅礬ヲ吹竈ノ中ニ十舟ニ乗ノ凝
結ニタルモノ之燒時ニ一番ニ上ハ濕薦席ヲ度フ火
盛ニ薦席焼テ灰トナル中ニ塊アリ大小相雜
ル火中ニアレハ色赤シモ灰ヲスハイト云河中ニ投ス
レハ臭虫尽死ス塊臭ニ乗アリ冷レハ臭ニナル外家
カホリコレヲモノナユコレ砥石ニアラズ紅砥ニ天工開

物曰紅砒則分金爐內銀鉤忙亦有閃成者ト燒テ
云相トナラ法ニ天工開物ニ詳ニ高野山玉川ノ水毒
アリト云足砒石アルヤ又有馬ニ馬ノ地獄ト云所アリ
自手砂アル所ニ馬ニ中ニ花入ルル死ス蓋礬石花
和傳トモ不詳礬石砒礬二石モ款色アリ形ニ依テ
辨スト云

出資

徳法ノ記ノ如ク諸業ヲ合メ削スルモノニ和名モナリ
舶来モナレ

金星石 附銀星石

灰色ノ石ニ金色ノ斑點アリ款序ヲナス中ニモ星點

アリ光リ白キヲ銀星石ト云二種モ和別知ルモ多ク
アリ江列田土辺ニモ二種モアリ大志モノ尺餘小者不
可數存有原始作金精石銀精石時珍疑之和方
ニ匠石ニ代へ腹痛ヲ耐火ス天台山ニモ阿アリ業特ニ
金礬石ヲ賣ルニ多ク此モノヲ以テ偽ル

産不詳時珍曰非翡翠石能屑金 玉ノ類中其

ニテモ貴重ス和産ナレ岡村屋書紀曰埤田録言
家有碧玉墨制衣甚精有老内臣見面識之曰
此玉石非翡翠中曾有之暇日取金環磨面玉
金而非ニ落如屑乃知翡翠非金之說此等不
考有故不能識耳云云林石譜石干闥石干闥

同ニ出ル故ニ

附録

金石

未詳

蓋旧物

婆娑石

未詳

和名及舶来ナシ 解毒ノモノ

礞石

青礞石

和名通名

舶来古後ヲ上品トス今来ルモノ下品ニ青黒色

ニ銀星アルヲ上トス 燒ケハ銀星漸ク金星トス

此ヲ金星礞石ト云和名 燒ズレテ金星アルハ偽物ニ

近金星石ニ青礞石和名 舶来ノ近年大和

下牧村ヨリ出ス上品ニ本村原始市多以金星

石充之又一種金星礞石ト云モノアリ 淨後ニ此亦

偽物ニ薄クノ金色和名金雲母ト云 薄名未詳

花乳石

アハモチケシ

舶来古後ヲ上品トス今来ルモノ下品ニ黄色ヲ貴

フ斑文アルモノ至テ上品ヨリ片ヲナス。本経逢原曰

産硫黄山中。和名通名

白羊石

未詳

白羊ハ山ノ石此山ヨリ出ス 故ニ名リ

金牙石

和名通名

形方ニ和方金分ト云白ニテ方銀分ト云大小

アリ自然銅ニ似テ稜アリ 淨後多ク和名佐後信濃

参河但馬大和吉野皆自然銅金分石共ニ出ス

形同に見分ヤウハ火ニ投メ死ハサルハ自然銀之花
ハ金身石之金をメ然モアリ此ハ銀石ニ

全剛石 産名 テヤニン キヤコシテ

老人将来ルモノ俗ニキヤニン石ト云老人指環ニ

書ル水日明ノ如ク明徹ノ舶来タリ硝子ニテ偽ルカ

ニ見ルニニ象眼アルハ真ニアラス真ナルモノ玉ヲ刻ニ

泥ノ如シト云今玉工用ルトコロノ全剛ニヤウト呼

モノハ奮玉石ノトニ本條トハ別ニ 見テ者玉附録

砒石 イレバリ

今絶テナシ 鍼ニ作ル石ニ

附録 石磐 矢ノ根石 カミノヤノ子

自然ノモノニ形種ニアリ白色ヲ上トス甚可觀モノ

ナリ又色アリ皆小ニ大ナル稀ニ能食鹿島同鳳

至郡佐後越前等陸奥濃赤坂山産空蔵山

奥列土羽新庄ノ梅カ岡同最上谷知祇園寺

飽海ノ大物忌大明神ノ境内ニアリ雷谷雷刀

アリ飯盛塚ニモアリ秋田ノ本庄同田川郡石濱

奥列土羽佐後上品越之三列上野下野尾

列豫列岩濃赤坂下品飛列能列上品

越砥 カミソリド アハセド

越砥ハ山列鳴籠ニ出ルモノヲ上品トス上列砥ハ

澤砥ト云コレ赤上品水ヲ不用ノ磨ク丹後津江

淡白色ニ
班アリ

出ルモノ下品ニ。刀劔ヲ磨ルニ用ル砥ハ青白砥最上
品コレ白砥之和別オキ白山ノ奥ニ岩塔アリ古塔ヲ
ル迹之今ハ不据之何ノ名倉砥上品山別塔城ニ上
内モ云ト云上品ニメ彦何ノ産ニ次ク越前ノ寺度
寺砥 俗名ナシ コレ内層ニ次ク又スリ砥上引砥
アリ共ニ出知未詳。深ノフレヲ磨ル砥ハ對馬ノ
虫喰砥上品ニ得名雞肝石 物理 コレニ又山別塔城
林泉寺辺ノ何原ニ産スルモノ灰色ニメ黄ヲ帯フ
上品ニ○アラト得名玄礪 山海經 山体ヲ上品トス
丹以周防ノ岩國ニ出ツ又山別塔開寺砥アリ。
礪石ハ肥前ノ島原ニ天守伊豫記別神子濱

肥前唐津ニ出ツ又山別塔掛嶺ニ出ルモノ下品

釋名 礪石 アラトナリ

薑石 ニヤウガイシ

讚列刑部何原ニアリ松前ニモアリ形ニ依テ名ッ又

殷薛子一名薑石同名產物

夾々飯石 ヌカミソイシ アツキメシイシ

厚後ハ灰白色和産山別鴨河ニアリ。

和園子ノ説山傳白河山石ヲ表飯石ト云トイリ

産解 於溪間麻石中ニ 麻石ハアライシレ麻石ハ此

ノアラキヲ云

水中白石 ナクアラシ ウレシレ メツフシ ミツイシ

河辺ニアル回リ白キ石之樂焼ノ白漆又ハ硝子ニ
用ニ佐後備後紀列伊路奥列山峰賀茂河アリ

河砂 カハズテ

至テ細ナルヲ真砂ト云 相換ノ大礫ノ砂ハ黒之和泉
ノ助相撰列兵庫金山ニ用ニ相換ノ大礫黒胡
砂山得ノ鹿背^{鹿背}砂黄白色ノ灰色ノ斑アリ備
後ノアウレ砂帝釋山ヨリ出ル以上ニテ知ノ砂
ヲ用ユ

コハメ石ノク
子ナリ

杓上砂

杓ノ中ニ入タル砂ニ

石燕

形規殼ノ如ク堅キ石之色黄黒色薄後アリ初産
ニ尾列ヒカ島紀列和列能列ニ出ス。横長キハ
雌ニ縦長キハ雄ニ存竹原始ノ因最可之景棟ノ
モノハ滑澤後ニ

近年尾列海
辺ヨリ出ス形燕
ニ似タリ大テ
五分許七八分
ニ至ルモアリ

石蟹 カニイシ

舶来アリ初産備前ノオシノ浦日向ノオシ能登
尾列日間嘉島筑後堺ノ住吉信濃猿ノ山領寺
陸古神浦對馬島^島アシ原蝦夷ノ道浦伊智
ノサカキ原山ニ出石中ニ解虫アリナリ定リ解虫ハカリ
ノモノモアリソノ外奥ノ化石諸國ニ出ス 歴土中ニ入ホト
共ニ化タルモノニ

雁不解石蝦

正ニ今ニ日向ノムカウ山ヨリ出海蝦

化石之石蝦之。香臭ノ化石壹岐ノ風寺ニ出ス。鄭真
ノ化石壹岐後ニ出ス。西采野ノ金山ト云トコロニ伊豫
ノワカ、瀧壹岐後河ノ江ニ出ス。蝦蟇ノ化石ハ長門
ノ海辺尾列鋸村ノ山中ニアリ。石臭一名臭龍石
見于雲林石譜以上諸列ノ臭ノ化石ハニナ石臭
石蛇 楠ノフシ和泉

歌仙貝ノ中ニテ濱カワラト云モノコレニ形ニカリテ
蟠屈ス又長クノ不蟠アリ此ヲ伊豫ニテ尺八貝ト云
皆石蛇ニ
雁解 車螺クルニ貝又山車貝アリウツ貝ヘソ
貝アリ皆此類ニ卷ヤウニヨツテ名ヲ矣ニス

石替蛭 ミトリ石

替蛭^{カキ}ニ似クル石ニ寒貝ニ松ノミトリト云モノアリソノ
形ニ似タリ。虫部ニ石替蛭アリ同名実物虫部ノ石
替蛭ハ和名ケナト云虫ノ巢ニ
南都ニテ大黒石エヒス石越前被賀ニテ岩虫ト云

石鱈

鱈ノ形ノ如キ石ニ和傳共ニナレ

蛇膏

李氏蛇膏蛇舎石ヲ二物ニ分ツ不可ニ存竹屋言
同一物トス是ノ古来蛇舎石ヲ蛇ノ腹中ニアルト云
或ハ蛇穴中ヨリ出ルナドノ説皆誤ニ舶来アリ和

産十ニ形ノ獨ノ者餘子ノ如ク同ニノ扁ニ紫黒色
自注銅ニ似タルヲ以テ世人誤リテ自注銅ヲ以テ
蛇含石ト稱ス破リテ内ノ色錫ノ如キモノ蛇含石
ナリ信江色ニノ金色ノ束鍼攸アルハ自注銅ナリ
自注銅形同ニ外ニ方鉄砂着ケリ瘡癩アルア
リ又十キモアリ厚後ノモノニハ鉄砂着カズ出
羽ノ秋田遠別大井川ノ辺持保山ニ出ス記列田
辺橋谷ニ出ス自注ニ土中ヨリ出ルモノナリ和産
ハ皆自注銅ニメ蛇含石ニ非ス

霹靂石

本邦ニテハ石弩ノ大ナルモノニ形種々アリ形ニ
テシカカリ

ヨリテ名ルアリ越後保野岩濃金山ニ出越後
山中ハ雨後ニ多ク生スル山アリ黒色或青色或
灰色或硬キ石ニ形状大斧ノ如シ

雷星 未詳

高ノ落ニ跡ノ星ニト云記アリ可考

本草綱目石部目錄第十一卷

石之五

鹵石類二十種附錄二十七種

食鹽

戎鹽

光明鹽

鹵鹹

凝水石即寒水石

玄精石

綠鹽

鹽赤懸石附

朴消

玄明粉

消石即煇消

碓砂

蓬砂

特蓬殺
石華附

石硫黃

石硫赤

石硫

主月
硫黃香附

礬石

綠礬

黃礬

湯瓶內鹵

附錄諸石二十七種

本草綱目釋名卷十一

石田熙

筆受

石之五

每石類二十種所錄二十七種

食鹽

石末

重石ウツト

産解中品類又種ヲ列ス未タモ言フ詳ニセズ
 日本ニハ二種アリ播列赤種ニ燒ノモノ上品之伊豫
 和山ニ燒リモノ次之赤種ハ白ノ粒細ニ故ニ上品トス
 日本第一ニ共ニ海塩ニ行路ノ味ニテ燒ノモノハ
 産解中ノ鹹塩ニ鹹塩ハ塩土ニ海邊ノ沙地ニ
 從テ築キ今内ノ地ヲナラシ置テハ塩吹土ニ再製
 産相ノ下ニ如シ是ヲ鋤ニテヨセ佳不ノ土沙共ニ採

本草綱目釋名卷十一
 石田熙
 筆受
 石之五
 每石類二十種所錄二十七種
 食鹽
 石末
 重石ウツト

竹ノ葉ヲ用テ毛上ニ上ニ海水ニテ淘シ是ヲ燒テ
倭俗ニホト云色ウルニテ粒粗シ下品之中集ニ
テモ山嶺南ノ辺ニ採ル凡ソ鹹塩ヲ采ル処海塩ハ
采レヌナリ

雀小解 井塩 奥列會津伊北郡月輪庄古塩ノ
里ニ土ニ之ノ井塩之西行佐仰ノ歌ニ

海土ニナリ海ナラズニテミチノクノ山カツノクム
大ニホノサト 山中井ノ如キ 岩穴ノ中ニアリ故
ニ井塩ノ名アリ

飴塩 松岡氏ノ記ニ稻氏曰
肥前國佐賀錫嶋丹後守家臣家定所新井
地中得白色如冰糖者膏之味甚甜美土人

之自是一種物而飴塩産於地中者正謂
之也

戎塩

鹽船載来ル青赤二品アリ薄後赤色ナリ

葉肆ニ傳ルモノ唯薄後ノ故赤キハナリ **散子**ノ大ニ
方ニ淡綠色ニ少ニ黑色ヲ帯ルモノアリ赤キハ紅毛

人持来ル所食用ニ自給ノモノニ紅毛別ニ食塩
ナリ戎塩鹹味冷シ甚解リ

解 散子塩 和名水晶ニホ兩國ニ出ツタレ塩
ヲ地中ニ汲タノ底ニ自然ニ凝ル形方ニ中
央突張ス四方流レノ屋上ノ如シキサアリ白色

大サ四六分乃至一二寸好事ノ士用テ下酒トス

光明塩 ハルシヤシホ

老人持来ルモノ散子ノ如ク方ニ明徹水晶ノ如ク
故ニ名リ方解石ノ状ノ如ク明徹ニ明徹ナラサルハ
産塩ノ類概スルニ産塩ノ上品ナルモノニ

雁子解 時珍曰又波斯出有自然自然如細石子

此ハチラングシホト云 紅乞人持来ル故ニ名リ雁列テ
自然ニホ天道シホト云 形ハ包ノ玩物ノ塔ノ如ク膚
明紫ノ如ク自然ニ凝ルモノニ海塩ヲ燒ク所ニアリタル
塩ヲ地中ニ貯ク者仲ニ自然ニ凝ルモノニクシ塩ハ塩ヲ
ニキタル土沙ヲコレニテテ元ヲ握リテ舌中ニ貯ルモノ

ナリ天道塩味可酸ト云

鹵鹹 ニホノカタナリ

塩ヲ多ク積ミタル下ニ白石ノ形ノ如キモノ生ス此レ
ニカリノ塊リテ土中ニアリ明徹ナルハ寒水石明徹
ナラサルモノハ鹵鹹ナリ

雁子解 弘景曰鹵鹹産塩釜中凝滓 是ハ形状相似テ

合ハ非ニ伊録西條ト云所ニカフヲト云 陰石用ル
モノニ間ニ常仰ヘテ来ルモノニ必鹵鹹ニ非ニ

凝水石

真ノ空ニ水石ニ塩ノニカリノ塊リタル石ニ塩ヲ卷ニ
入多ク積ミ久メ舌下ニ土中ニ石室ノ如キ石ノ塊リ

出来ル明礬ノ如クカタコリ色白クナル之土上ニモ土中
ニモアリ又塩梅ヲ細ク内ニモ自然ト生ス暑中ト
雖モ解ケス水中ニ投スレハ即解散ス搗列赤粒
クダリアリ京師ノ塩商ニ求レハコレアリ赤粒ニ氷粒
ノ如クニナルアリ長ク又才許中ニ木桿一條アリ
是一種ノ奇品ニ業肆所售ノ之ニ水石ハ皆方
解石ニ又石膏ノ一名ニ水石ト云是月石

玄精石

和産ナレ舶来ノ之小石中二分長ク二分ヨリ
又分前後皆劔形ニ青白色ニ十字字ニツリモア
リ舶来是一品ニ集少解所謂如杏葉石今後

ラス小ナルモノハ之ニ本尊葉言曰今天下所用
玄精石多見鋒列山中所生鋒石水浸不化
此係坊中偽充非真玄精石之舶来多ク此種
ナリ真ニ非ル也

綠塩

得後和産共ニナレ時珍ノ記ノ如ク創製スレハ此方ニ
テ出来ルニ紅毛人將来ルニスバンス田クドウント
云丹青ニ用エ奈良録青コリ色後ク紅毛画ノ
設彩ニ多用エ色後録ニ蓋ニ赤銅ノ鏽ヲ来ル
ニノ舶来味酸也

塩業

舶来ナレ和産近來似ルモノアリ上徳山郡郡大
豆谷村ニアリト云土坑中石相ノ如キ白粉生ヌ又云
中ニ自然ト凝リ芒消ノ形ノ如クナルアリ此白粉ヲ采
リ芒消ヲ割スル如クスレハ凝結ノ芒消馬分消ノ
形ニナレ風化セズ味若シ芒消ニ異リ此和産ノ
塩草ニ又南郡辺ニ青土ヲ採リ高クニ白キ
粉ツキ出ト云此ニ相近キモノニ紅毛人將來ニモ
ノサクニイチウヲト云馬分消ノ形ニ似リ

附録 懸石 未詳

朴消

今云芒消ノ下ニ是ニモ塩消ノ名アリ鉄鏡ノ葉ニ

用ニハ燻字ヲ用エ消石ノ下ニ詳ニ朴消ハ消石ニ
似タリ消石ハ多クノ家ノ床ノ下ニ生ヌ朴消ハ因
地ニ生ヌ消石ハ次消ノ^{解見消} 朴消ハ水消ノ南地
ニアレモノト云^採ラ茶肆ニテ灰様ト云土ヲ去
水壳ノソレヲ淘羅ニ入承ニ盤ヲ以テシ上ヨリ湯ヲ
注ケハ消解ケテ下ヘ落脚停ハ淘羅ノ底ニ残
留ル者落ル水ヲ葉瓶ヲ入レテ覆ヌ葉瓶襪セ
ルヲ覆トス^雷釜様ノ目ノ襪キ器ニ移入一宿至
ケハ上ノ方ニ芒消馬分消生ヌ底ニ一面ニ塊ヲナ
スヲ多消ト云停ニ是ヲ又再覆スレハ又如此ナリ
芒消ハ鍼ノ形ノ如ク細キヲ云今茶肆ニ佳ルモノ

馬牙清之俗通ノ芒消ト云而ノ芒消ハ今ナレ然レ
石ノ如ク制スルハ至極成ルモノニ秘産未_レ有

玄明粉

芒消ニテ制ス修治精ニ奉徑逢原曰以芒消方
消同来服汁耳草_ニ菴子_ニ鼎罐昇煖謂之玄
明粉日奉制ニ成ス人舶来モアリ

儲石

シロエシヤウ

未_レメ灰ヲ合セサルモノニ灰ヲ合スルヲ火消ト云々
日ノ膏_ニ知_ニ生ス又床ノ下ニ生ス土ノ底ニアリ
煎ノ制_ニ秘産_ニ加_ニ制_ニヨリ_ニ上_ニ口_ニ筑_ニ前_ニ也_ニ後
英作越中飛彈安徳_ニ伊_ニ積_ニヨリ_ニ出_ニ不_ニ讚_ニ岐_ニ出

モノ上品

正統

假消石 廣セ消石

碯砂

モウシヤ 壺名サルアルニヤカ

唯_ニ淨_ニ後_ニノ_ニ之_ニ不_ニ律_ニニ_テモウシヤト云_ニ形_ニ石_ニ蜜

如_ニノ_ニナ_ニモ_ニノ_ニ

透砂

ホウシヤ

青色ナルヲ油ホウシヤト云_ニ白色ナルヲ_ニ白_ニ碯_ニ官_ニ碯_ニ透

ホウシヤト云_ニ中_ニ美_ニ青_ニ鵬_ニ官_ニ鵬_ニ白_ニ鵬_ニノ_ニニ_ニ口_ニア

ル_ニ下_ニヲ_ニ本_ニ州_ニ原_ニ始_ニ見_ニエ_ニタ_ニリ_ニ葉_ニ用_ニハ_ニ白_ニ鵬_ニヲ_ニ用_ニエ

油ホウシヤ_ニ青_ニ碯_ニト_ニ云_ニハ_ニ金_ニ銀_ニヲ_ニ錫_ニス_ニル_ニ用_ニニ_ニ本_ニ州_ニ

ニハ青鵬ノ_ニ下_ニヲ_ニ論_ニセ_ニズ_ニ和_ニ産_ニナ_ニレ

附錄 特蓬殺 未詳

正字通曰礪註曰拾遺音有特蓬殺出嶺列
山園中似礪砂即火礪砂俗偽呼為特蓬殺
也聞山先生曰此說為是

石礪 灰 一ワソ

數種アリ此三品別ツ色白ヲ上品トス此ヲ鷹
目ト云色灰ヲ中品トス鶉ノ目ト云青色ヲ下品
トス火ヲナト云灰白ノ二種ヲ銃銃業ニ用エ者ハ
不用又山ヨリ礪灰ヲ採リ碎リサツト者火ヲ土味
ヲ去クルヲ煮礪灰ト云山燒ト工口堅ヲ石後ニ云
内ニ涌ヲ生礪灰ト云物理少識曰日本土礪灰

多不可作竈必取別島土條日本記曰元明天
皇和銅六年相換信濃陸奥礪灰ヲ融ス
今之相換相根信濃後阿比羅陸奥福島同
有月津ノ大垣里出羽ノ秋田豊後玖珠縣同
連水縣ノ礪灰山肥後ノ阿蘇山越後ノ妙香山
越中ノ立山加賀白山下野日光伊豆ノ大島土
佐ノ陽ノ上ノ二嶺日向ノ新島肥前ノ島原甲斐
國樺列有馬山伊豫ノトウゴノ陽ノ山了り薩摩
八下品ナリ。中集ニテ和産ノ礪灰ヲ船礪灰ト
稱ノ貴ノ高病回至ニ見エタリ 船トハ番船載
致ス故ナリ

雁解 潘水石液 市詳 蓋着子礬石通水石
者作石水色如鴉子初出殼者名亮亮命京
此鴉子頭 實上ルモノアリソレヲ云之鴉子ハ全身自
和俗鴉ノ目ト呼フモノヲ以テコレニ光ツ 和俗鴉ヲウ
ト訓ス鴉ハガラシキヤウニ詩経ニ見タリ 鄒璞亦推
今之鴉子ニ俗呼為洵河ト是之

石硫素
赤硫素ニウノ目ノ内ニ少シツ、雜リテアリ

石硫素
火クテケイワウニ下品ノモノ

附録 硫黄香 赤輝

礬石 トウス ドウサ 堯名アルモノハイタラウノメ

枯礬 フラシタアルイ

明礬ハ礬石ノ内ニテ上品極透明ノモノヲ云日本
ニテ通ノ明礬ト云ハ誤ニ燒カレタルヲ枯礬ト云
淨後初産共ニ常特ニアリ舶来ノ中ニ南京アリ
少シ黒ミアリテ濁ル係家ニ用ユスキ明礬ト云アリ
白ノ透明ニ是ヲ常用ニス今ハ本邦多量出ス但泉ノ
アル処皆アリ地燒ケテ僅ク始アリ俗名ヲ地獄ト云
又地獄ト云ニ上ラ采リ削メ明礬トス方極芒
消ノ劑ニ同キ儘ニ採リテ水ヲ濯キ上ヘ再薦
チテ互フムセテ土焙乾スルニ製ニ花ノツリカ如シ

是ヲ淘盤維盛リ水ヲ以テユス土ハ上ニ残り溜リ明
礬ハ下ヘ落ツキ停ヲモトノ地ヘコキ垂ハ又明礬
タルコトコレタル水ヲ灰汁ニ合シ三時許者テ大ナル器
ニ入水ニテ冷セハ凝テ明礬トナル是和ノ劑之長門
豊後肥前能登甲斐相列箱根遠江近江飛騨
肥後之外諸國ニ出ス和方ノ中ニ明石ト云ハ明
礬之真土ニテハ石此石何物也ヲ燒テ采ルキ劑天工
開物ニ詳ク

綠礬 口ウハ 美青口ワシ

和厚共アリ綠色ヲコレト云赤色ヲ赤ルヲ
味嚼様ト云常用ニ海邊賣ル至テ少シ故騰

礬ニテ偽ニ宜精擇和者長列此秋上品ニ播列
撰列多田野列ヨリ出 和産毒アリ毒

ホニテハ石炭ノ土ノ下ニ回キ石瓦コレヲ燒テ
採ル天工開物曰煉炭外礦石俗名銅炭和
劑ハコレニ類レリ 禿山禿山黒ク焦レタル石アリ

コレヲ銅鉛ニ入レ水ヲ入テ煮ル上ノ水ノ清クルヲ去
底ニ氷柱ノ如キモノクニル此和ノ口ウハハ口ウハヲ
又燒ケハ赤リナル此ヲ礬石ト云朱座ニテ銖朱ノ

中ニ雜エ銀朱ニ偽ニベンガラノ上品礬石ト云下品
ノベンガラハセンクスヲ燒成ス此センクスハ銅ノ砂ヲ用ルカ
柔鉄砂ヲ用ルカ

美礬 キシミヤウバン

和傳共三丁リ豊後伊豆出羽相模ニ出ツ傳物ニ用ニ
景肆ニ賣ル

湯瓶内驗 工口ノ内ノチリ

凝結ノ細砂ノ如キモノ

附録諸石 二十七種 尽未詳

本有細目詳記卷十一 終

